

●●●2022年10月～12月期 栃木県中小企業景況調査(174回)●●●

【栃木県D I 指数天気図】

今期(県内全体)の業況



D I 値
-25.2
※全国 -22.9

業況

県内全体の業況(DI値)は、前期(7-9月期)より3.0ポイント悪化の-25.2ポイントとなり、製造業、小売業は悪化となったが、建設業、サービス業は小幅ながら改善となった。特に2022年4-6月期に20ポイント以上の大幅改善となった小売業は17.2ポイントの大幅悪化となった。全産業で経営上の問題点として、今期においても、材料等仕入単価の上昇が30%以上を占め第1位にあげられており、高止まりが続いている。

来期は、建設業、小売業、サービス業は横ばいとなる見込みだが、製造業では20ポイント以上の改善となる見込みであり、県内全体の業況も9.1ポイントの改善となる見込みである。

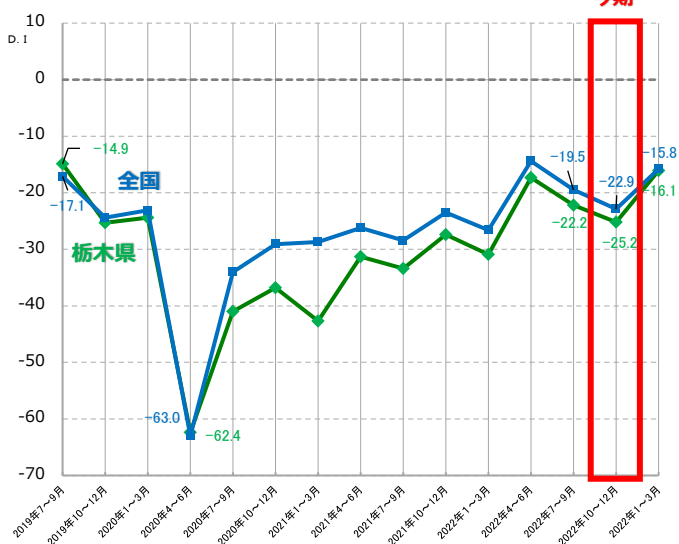
～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
D I 値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

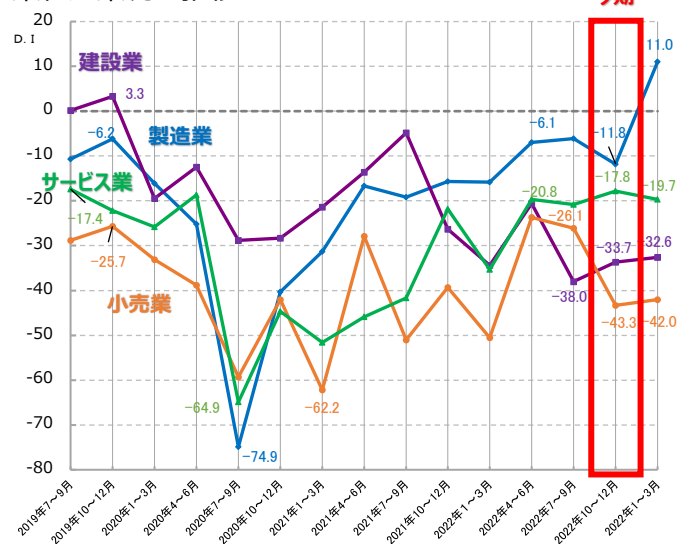
業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	D I 値	-11.8	-3.3	75.9	-26.7	-23.4	11.0 (↑)
業況：前期から-5.7ポイント悪化、来期は+22.8ポイント改善の見込み							
建設業							
	D I 値	-33.7	-20.0	85.0	-25.0	-5.0	-32.6 (→)
業況：前期から+4.3ポイント改善、来期は+1.1ポイント改善の見込み							
小売業							
	D I 値	-43.3	-25.0	69.2	-37.5	-27.5	-42.0 (→)
業況：前期から-17.2ポイント悪化、来期は+1.3ポイント改善の見込み							
サービス業							
	D I 値	-17.8	-1.6	69.5	-38.3	-18.6	-19.7 (→)
業況：前期から+3.0ポイント改善、来期は-1.9ポイント悪化の見込み							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

全国と栃木県の業況の推移

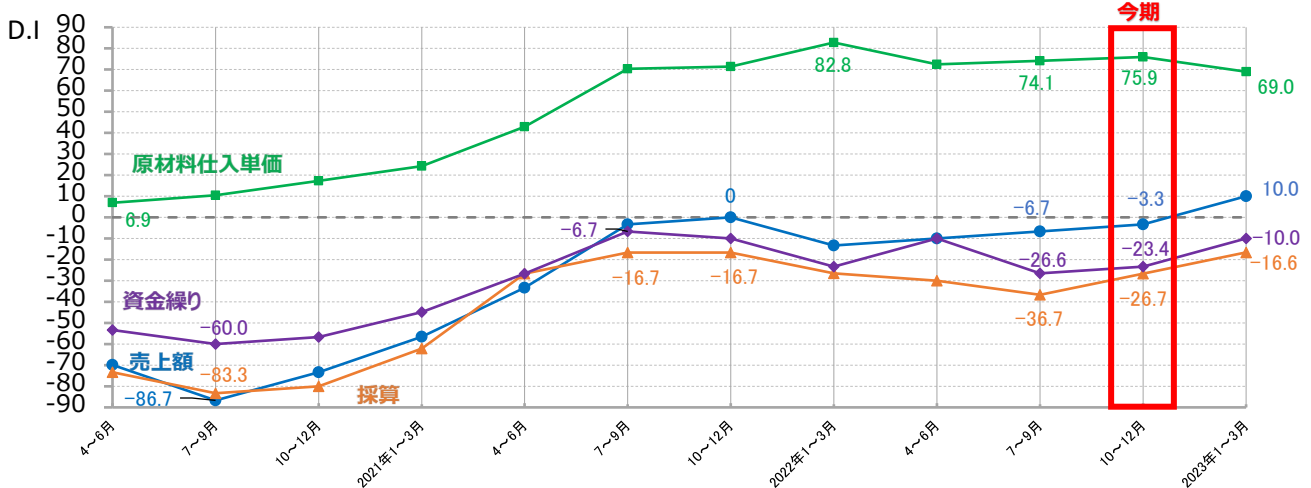


業種別業況の推移



製造業

「採算、資金繰り、売上額が改善、来期も改善の見込み」



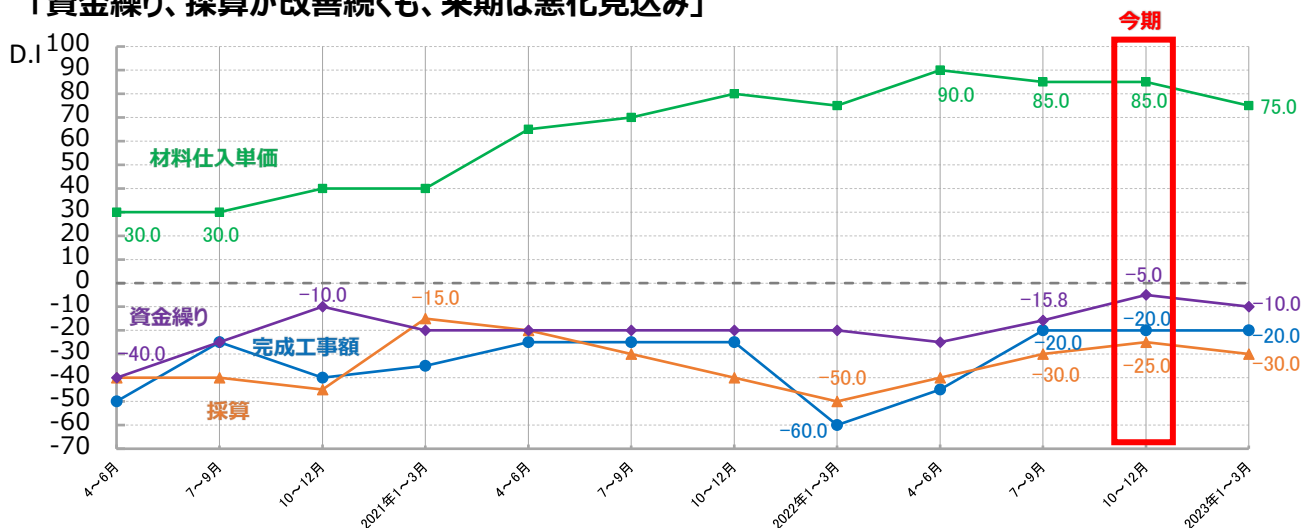
2022年1-3月期より悪化が続いた「採算」は10.0ポイント (-36.7→-26.7) と大幅改善となった。前期に大幅悪化となった「資金繰り」は3.2ポイント (-26.6→-23.4)と小幅の改善となった。2期連続の小幅改善となった「売上額」は3.4ポイント (-6.7→-3.3) と改善が続いた。来期は「売上額」は13.3ポイント (-3.3→10.0)、「採算」は10.1ポイント (-26.7→-16.6)、「資金繰り」は13.4ポイント (-23.4→-10.0)と大幅改善となる見込みである。

「原材料仕入単価」は横ばいとなった。来期においては-6.9ポイント (75.9→69.0) と下落となるものの、高止まりが続く見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位： 原材料価格の上昇 (35.9%) 第2位： 需要の停滞 (21.8%)
 第3位： 原材料費・人件費以外の経費の増加 (11.5%) 第4位： 熟練技術者の確保難 (10.3%)

建設業

「資金繰り、採算が改善続くも、来期は悪化見込み」



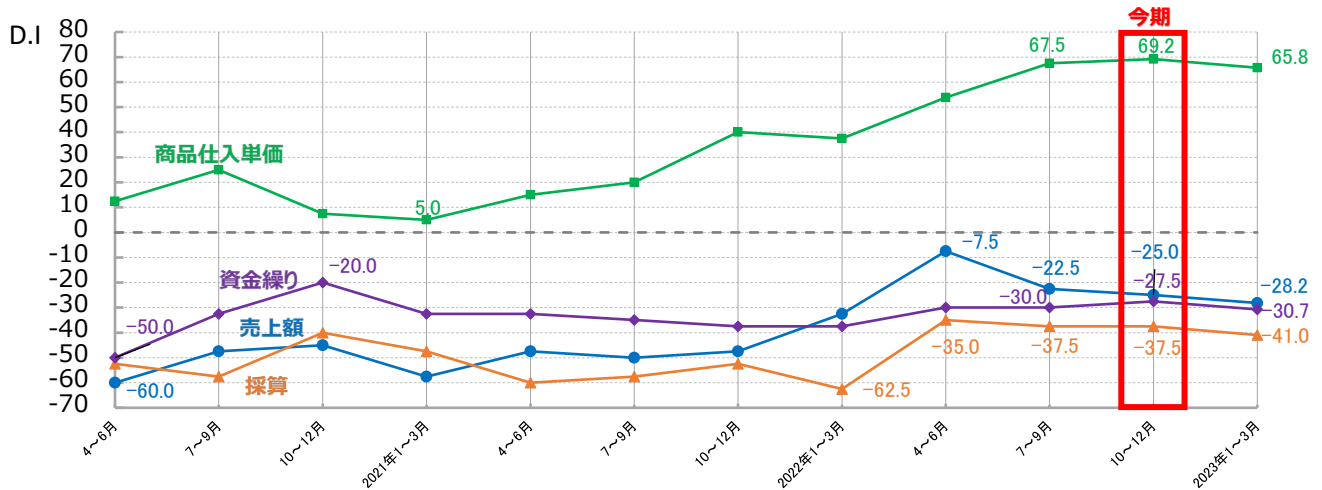
前期に改善となった「資金繰り」は10.8ポイント (-15.8→-5.0) と大幅改善となった。「採算」は5.0ポイント (-30.0→-25.0) と小幅ながらも3期連続の改善となった。2期連続の15.0ポイント以上の大幅改善が続いた「完成工事額(売上額)」は横ばいとなった。来期は「採算」は-5.0ポイント (-25.0→-30.0)、「資金繰り」は-5.0ポイント (-5.0→-10.0)と悪化、「完成工事額(売上額)」は横ばいとなる見込みである。

「材料仕入単価」は横ばいとなった。来期は-10.0ポイント (85.0→75.0) と大幅下落となるものの、高止まりが続く見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位： 材料価格の上昇 (35.3%) 第2位： 従業員の確保難 (23.5%)
 第3位： 官公需要の停滞 (8.8%) 第4位： 民間需要の停滞 (8.8%)

小売業

「商品仕入単価が高止まり、来期は下落も高水準が続く見込み」



前期に最高値となった「商品仕入単価」は横ばいとなった。来期は-3.4ポイント（69.2→65.8）と小幅下落となるものの、高止まりが続く見込みである。

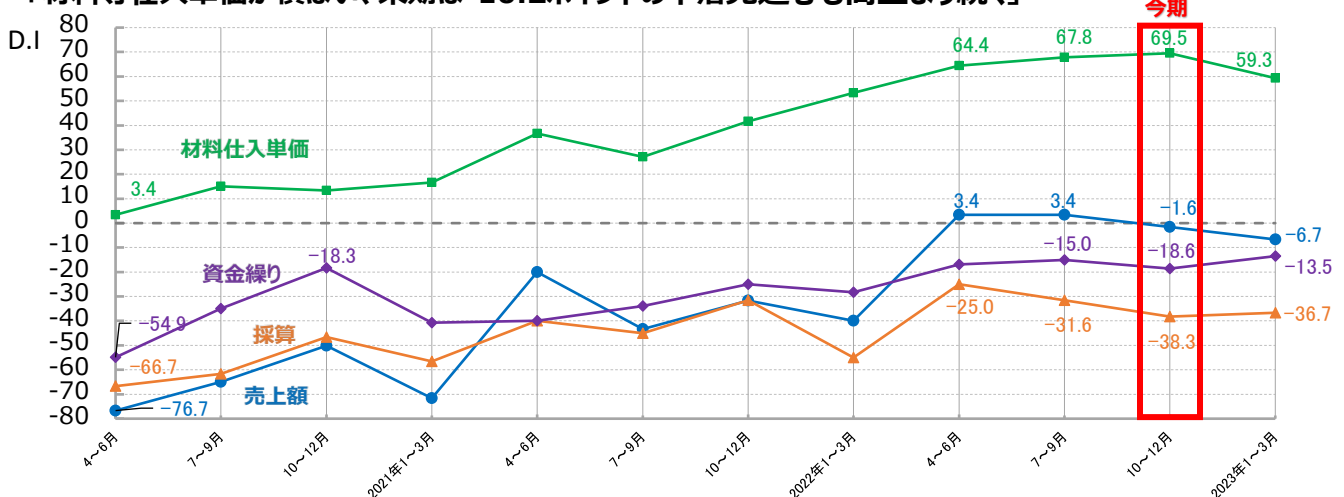
前期に-15.0ポイントの大幅悪化となった「売上額」は-2.5ポイント（-22.5→-25.0）の悪化となった。2022年4-6月期に大幅改善となった「採算」は前期より横ばいが続いた。「資金繰り」は2.5ポイント（-30.0→-27.5）と小幅の改善となった。

来期は「売上額」が-3.2ポイント（-22.5→-25.0）、「採算」は-3.5ポイント（-37.5→-41.0）、「資金繰り」は-3.2ポイント（-27.5→-30.7）と悪化となる見込みである。

- 【経営上の問題点】
- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 第1位：仕入単価の上昇（38.3%） | 第2位：大・中型店の進出による競争の激化（15.0%） |
| 第3位：需要の停滞（11.7%） | 第4位：人件費以外の経費の増加（10.0%） |

サービス業

「材料等仕入単価が横ばい、来期は-10.2ポイントの下落見込むも高止まり続く」



「材料等仕入単価」は1.7ポイント（67.8→69.5）の横ばいとなった。来期は-10.2ポイント（69.5→59.3）と大幅下落するものの、高止まりが続く見込みである。

2022年4-6期より最高値（3.4）となった「売上額」は-5.0ポイント（3.4→-1.6）の悪化となり、「資金繰り」は-3.6ポイント（-15.0→-18.6）と悪化、「採算」は-6.7ポイント（-31.6→-38.3）と前期と同幅悪化となった。来期は「採算」は横ばい、「売上額」は-5.1ポイント（-1.6→-6.7）の悪化となるものの、「資金繰り」は5.1ポイント（-18.6→-13.5）と改善の見込みである。

- 【経営上の問題点】
- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 第1位：材料等仕入単価の上昇（40.4%） | 第2位：利用者ニーズの変化への対応（11.2%） |
| 第3位：人件費以外の経費の増加（9.0%） | 第4位：需要の停滞（9.0%） |

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

下野市・粟野・足尾町・益子町・茂木町

小山市おもいがわ・岩舟町・喜連川・那須塩原市・足利市坂西

○調査時点

2022年11月15日

○調査対象期間

2022年10月～12月期の実績及び、2023年1月～3月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。



編集：栃木県商工会連合会 経営の見える課

発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央3丁目1番4号

次の100年も
ここに商工会

TEL 028-637-3731・FAX 028-637-2875